



すき さいしょうやま  
木製 鋤 宰相山遺跡出土（大阪市天王寺区）

飛鳥時代

大阪市教育委員会蔵

木を削りだした鋤で、全長は 121cm あります。現在のスコップ（写真手前）と同じ使われ方をしました。鉄が貴重であったため、全体を木製とし先端のみに鉄製の刃をつけて用いました。時期は 7 世紀の後半で、難波京の造成工事などに用いられた可能性もあります。



ふながた  
舟形 木製品 住友銅吹所跡出土（大阪市中央区）

飛鳥時代

大阪市教育委員会蔵

上町台地の西のすそ、現在の東横堀川の近くで見つかりました。舟の形をした祭祀具で、ケガレを舟形にうつし、水に流すことで

はら ひとがた いくし  
祓 いをしたと考えられます。この場所では、人形、齋串といった祭祀具も見つかっています。舟形の形状は屋形船のようなもの

や、船首と船尾を高くしたものがあり、外洋に用いられた船を模した可能性があります。海の近くの祭祀を知ることができる資料です。



煙突形土製品 さいくだに  
細工谷遺跡出土（大阪市天王寺区）

飛鳥～奈良時代

大阪市教育委員会蔵

高さ 55.2cm、下部の直径 51.5cm の大型の土製品です。底はなく筒状になっています。煙突形土製品は通常、円筒形をして

おり、朝鮮半島の百濟地域で見られ、かまど 竈 や炉の排煙に使われました。この土製品は大きく傾いているのが特徴的です。見つかった

細工谷遺跡には「百濟尼寺」という古代寺院があったと思われる、当地と百濟との関係を示す資料といえそうです。

## （2）報道発表資料 前期難波宮の南限を確認しました —「朱雀門」の西に延びる堀跡の発見—

in 問合せ先：教育委員会事務局総務部文化財保護課（06-6208-9069）公益財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財研究所(06-6943-6833) 平成 30 年 8 月 28 日 14 時発表 ページ番号：442572

大阪市教育委員会と公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所は、平成 30 年 5 月中旬から 7 月中旬まで難波宮跡の発掘調査を実施しました（図 1）。調査地は、孝徳天皇の「難波長柄豊碕宮（なにわのながらとよさきのみや）」と考えられている前期難波宮の正門である「朱雀門（す